

前立腺癌について

泌尿器科 赤坂 保行

皆さんは前立腺癌についてご存じでしょうか。前立腺とは、男性にのみ存在するクルミ位の大きさの臓器です。前立腺は精液の一部となる前立腺液を分泌しており、精子の運動や保護に関与しています。また、前立腺は膀胱とともに排尿を調節する役割も持っています。

近年前立腺癌は増加しており、日本人男性で最も多い癌となっています。日本では毎年約1万人の患者さんが前立腺癌で亡くなっています。前立腺癌は初期ではほぼ症状がない場合が多く、気付いた時には進行癌となっていることも多いのが現状です。

我々は前立腺癌を早期発見するためにPSA検査をお勧めしています。PSAとは、前立腺特異抗原を英語にして頭文字をとったもので、その名の通り前立腺から特異的に分泌されているたんぱく質です。50歳以上では1年に1回のPSA検診が推奨されており、これによって早期に前立腺癌を発見することができます。PSA検査で前立腺癌の疑いがある場合はMRI検査や、前立腺に針を刺して組織を採取することで診断を行います。前立腺癌と診断された場合には次のような治療法があります。

ホルモン療法

前立腺癌は基本的に男性ホルモンを餌にして増殖する性質があるため、男性ホルモンを抑える治療法です。男性ホルモンを抑える薬を内服しながら1-6か月に1回程度外来通院で男性ホルモンの放出を抑える注射を行います。副作用としてほてり、筋力低下、骨が脆くなる、勃起障害、肝機能障害等が起こる可能性があります。ホルモン療法は前立腺癌を治す治療ではなく、抑えておく治療のため手術や放射線治療が難しい患者さんが対象となります。

手術治療

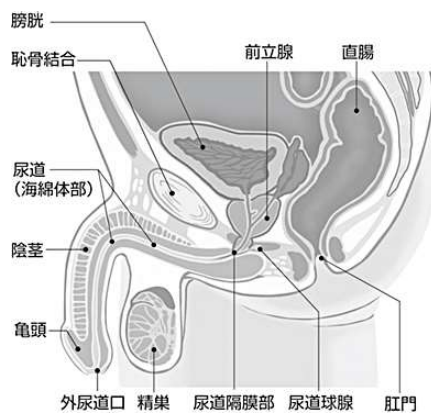
前立腺を手術で全摘除して膀胱と尿道を吻合する手術です。前立腺に限局する癌が対象となり、7-10日程度の入院が必要で近年は殆どが腹腔鏡手術又はロボット手術となっています。合併症としては術後の尿漏れ、勃起障害等が主なものです。

放射線治療

大きく分けて放射線外照射治療と密封小線源治療にわかれます。外照射治療とは体の外から放射線を照射して癌細胞を死滅させる治療法で、2か月近く毎日通院が必要となります。ホルモン療法を併用されることもあります。密封小線源治療とは放射線の出る金属を前立腺内に多数埋め込む治療です。入院して麻酔をかけて行い、数日で退院できます。

まとめ

50歳以上の男性は毎年1回PSA検査を受けることをお勧めします。検診で異常値を指摘された、気になる症状がある等あればお気軽にご相談ください。



竹内修二、膀胱と尿道、高久史磨ほか監修、六訂版家庭医学大全科、法研、2010

オンライン面会を行っています。

予約制となっておりますのでご希望の方は

公立世羅中央病院 ☎0847-22-1127へお問合せください。

